

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Mislocalization or low expression of mutated Shwachman-Bodian Diamond syndrome protein 《筆頭論文》	共著	平成 23 年 6 月	Int J Hematol 94:54-62	論文全体の概要:SBDS 遺伝子の変異と SDS 発 症の関連を SBDS タンパク質の細胞内局在性と の関連性を解析した。 (山口雅史、藤村欣吾、金兼弘和、梅英恵、 Rajesh Chopra, 岡村直樹) 担当部分:共同研究につき本人担当部分特定 不可能。
2 (学術論文) Effects of chemical modification of ursodeoxycholic acid on TGR5 activation	共著	平成 23 年 1 月	Biol Pharm Bull 34, 1-7	論文全体の概要:ウルソデオキシコール酸の修 飾物が TGR5 を活性化することを検討した。 (井口祐介、Nishimaki-Mogami T, 山口雅史、 寺岡文照、金子哲夫、宇根瑞穂) 担当部分:共同研究につき本人担当部分特定 不可能。
3 (学術論文) Bile alcohols function as the ligands of membrane-type bile acid-activated G protein-coupled receptor.	共著	平成 22 年 6 月	J Lipid Res, 51(6):1432-41	論文全体の概要:胆汁酸が G タンパク質共役受 容体である TGR5 のリガンドとなることを明らか にした。 (井口祐介、山口雅史、Sato H, Kihira K, Nishimaki-Mogami T、宇根瑞穂 担当部分:共同研究につき本人担当部分特定 不可能。
4 Cell type-dependent agonist/ antagonist activities of pol ybrominated diphenyl ethers.	共著	平成 25 年	Toxicol Lett. (13)01314-3	甲状腺ホルモン受容体を用いて、化合物結合を評価 した。 Nakamura N, Matsubara K, Sanoh S, Ohta S, Uramaru N, Kitamura S, <u>山口 雅史</u> , Sugihara K, Fujimoto N. 担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可 能。
5 Structure-activity relations hips of 44 halogenated compo unds for iodotyrosine deiodi nase-inhibitory activity	共著	平成 25 年	Toxicology. 314(1):22-29	ヒト肝臓からクローニングした IYD 遺伝子の活性 に影響を与えるハロゲン含有環境化学物質を解析 し、構造活性相関を明らかにした。 Shimizu R, <u>山口 雅史</u> , Uramaru N, Kuroki H, Ohta S, Kitamura S, Sugihara K. 担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可 能。
6 Development of a simple m easurement method for Glu R2 protein expression as an index of neuronal vuln erability	共著	平成 26 年	Toxicology Reports, 2:450-460	GluR2 の発現変動と神経毒性の関連を評価する アッセイ系を構築した。 Chihiro Sugiyama, Yaichiro Kotake, <u>山口 雅 史</u> 、Kanae Umeda, Yumi Ytsuyama, Seigo Sanoh, Kathuhiro Okuda, Shigeru Ohta. 担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可 能。
7 小児適用の一般用医薬品(液 剤)におけるチャイルドレジ スタントパッケージ(CE 容 器)の普及率と計量カップの 目盛の視認性に関する調査	共著	平成 27 年	日本薬剤師会雑誌, 67(2):197-199	小児適用の一般用医薬品(液剤)における茶 いとレジスタントパッケージ(CE 容器)の普 及率と計量カップの目盛の視認性に関して調 査を行った。安全性の観点から一定の基準を 設けることが必要と考えた。 佐々木順一、吉村元宏、吉永佳織、 <u>山口雅史</u> 、 塚本豊久 担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可 能。

8	Plasmin inhibitors with hydrophobic amino acid-based linker between hydantoin moiety and benzimidazole scaffold enhance inhibitory activity	共著	平成 28 年	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters 26:2259-2261	Plasmin 阻害剤の活性測定を実施した。 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。 Teno N¹ , Gohda K² , Yamashita Y³ , Otsubo T⁴ , Yamaguchi M⁴ , Wanaka K⁵ , Tsuda Y⁶ .
9	(著書) 新細胞生物学	共著	平成 25 年 3 月	廣川書店	著書全体の概要:医療系学部で細胞生物学を分かりやすく理解するために記載された教科書。 (総ページ数:265 頁) (著書全体の著者名 内海文彰、宇根瑞穂、岡美佳子、木村道夫、小林恒雄、高橋悟、竹鼻眞、野尻久雄、服部成介、藤室雅弘、水野英哉、山口雅史) 担当部分の概要:シグナル伝達 (担当ページ:pp.125~142, 共著)
10	(発表) SBDS 遺伝子欠損によって誘導される galectin1 の発現上昇に伴う細胞増殖異常	共著	平成 24 年 12 月	第 54 回アメリカ血液学会 アトランタ	Shwachman-Diamond syndrome の原因遺伝子の機能解析を行った。SDS 患者由来の細胞を用いてディファレンシャルディスプレイを行うと、galectin1 が過剰発現していた。この galectin1 が細胞増殖に抑制的に働いていることを発見した。 (山口雅史、藤村欣吾、梅 英恵、金兼弘和、岡村直樹) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
11	(著書) 薬学のための分子生物学	共著	平成 26 年 4 月	廣川書店	著書全体の概要:薬学部の分子生物学をわかりやすく理解するために記載された教科書。 (総ページ:318 頁) (著書全体の著者名 伊藤進、伊藤史子、懸川友人、金田典雄、葛原隆、多田周右、額賀路嘉、村田富保、山口雅史、輪千浩史) 担当部分の概要:遺伝子工学 (担当ページ:pp.221~255)
12	(著書) 薬学のための分子生物学	共著	平成 26 年 4 月	廣川書店	著書全体の概要:薬学部の分子生物学をわかりやすく理解するために記載された教科書。 (総ページ:318 頁) (著書全体の著者名 伊藤進、伊藤史子、懸川友人、金田典雄、葛原隆、多田周右、額賀路嘉、村田富保、山口雅史、輪千浩史) 担当部分の概要:遺伝子工学 (担当ページ:pp.221~255)
13	変異型 SBDS の発現量、細胞内の局在を指標とした分類と比較	共	平成 25 年 11 月	第 7 回 SDS 国際会議 トロント	SDS 患者から同定された SBDS 遺伝子の変異体を全種類作製し、HeLa 細胞にて発現した。これまで N 末領域が核への局在に必須と報告していたが、その他にも domain II 領域も核移行に関与することを明らかにした。 (山口雅史、藤村欣吾、梅 英恵、金兼弘和、岡村直樹) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。

14	All-transretinoic acid enhances Shwachman-Bodian Diamond syndrome protein expression and biological responses of SDS patients derived cells	共	平成 28 年 4 月	第 8 回 SDS 国際会議 ヴェローナ	<p>ATRAがSBDSタンパク質の発現を誘導することを発見した。ATRA処理がSDS患者由来の細胞増殖活性を促進することも見いだした。</p> <p>(山口雅史、藤村欣吾、高橋祐未、半田陽子、畝本真敬、定永由凜子、梅英恵、金兼弘和、岡村直樹)</p> <p>担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>
----	---	---	-------------	-------------------------	--

所属・氏名 (薬学部 薬 学科 氏名 : 山口雅史)